



ID: 1445

科目名	福祉行財政論【26年度生用】			コード			
英語表記							
担当教員名	坂本 秀泰			年度	平成26年度		
基準年次	3年次	開講期	後期		単位数		
授業形態	講義	授業形式			履修形態		
授業概要							
<p>・福祉の行財政の実施体制(国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織および団体、専門職の役割を含む)について理解する。・福祉行財政の実際について理解する。・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。</p>							
到達目標							
<p>現代の社会福祉サービスは国が基本的な施策を決定するが、実施は市町村をベースとして、行政担当者と住民および事業者が参加して行うようになってきた。これに伴って、福祉専門職は現場実践における専門性のみならず、計画策定段階においても専門的視点からかわることが求められるようになった。そこで本講義を通じて、福祉行財政、福祉計画の意義や目的等についての理解を到達目標と設定する。</p>							
授業計画							
第1回	オリエンテーション 授業の内容の説明とスケジュール						
第2回	福祉行政の実施主体 戦後社会福祉行政の展開と公的責任の推移 社会福祉の実施体制						
第3回	福祉行政の実施主体 国と地方の役割、関係						
第4回	社会福祉行政の組織と役割						
第5回	社会福祉行政における専門職と役割						
第6回	社会福祉の財政						
第7回	社会福祉財政の動向と課題						
第8回	社会福祉行政と福祉計画						
第9回	福祉計画の種類と範囲						
第10回	福祉計画の意義と目的						
第11回	福祉計画における住民参加						
第12回	福祉計画の策定過程と方法						
第13回	福祉計画の評価						
第14回	福祉計画の実際						
第15回	レポート作成						
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
受講態度、授業中の小レポート、期末試験、その他総合的評価			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
				30%	20%	40%	10%
授業外学習			テキスト、教材				
福祉行財政、福祉計画は一人ひとりの市民が大いに感心を持ち、主体的に参加することの必要性が問われる今日において、自らのモノとして考えることが求められていることを十分認識し、新聞やテレビのニュースや地域の福祉ニーズ、社会資源について日々気づいて、考えるようにして欲しい			『福祉行財政論』精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー 編集委員会 編集 へるす出版				
参考書			受講生へのメッセージ				
随時紹介			講義に出席するのではなく、主体的に参加して欲しい 授業中の私語、飲食は厳禁、守れない場合には出席を取り消すとともに単位を授与しない				
キーワード							